

表 シカゴ連銀経済報告（2021年12月1日公表）

項目	動向	関係者報告・背景
雇用と賃金	雇用は緩やかに（at a moderate pace）増加 賃金は堅調に(robustly))上昇	熟練、非熟練を問わず労働者を見つけるのが困難な状況が続いており、特にレストランや小売業、製造業では、労働者不足のために営業時間の制限を続けている企業も多くあった。労働力の供給を制限している要因としては、育児問題、学校の検疫、退職、健康上の安全性への懸念などが挙げられ、ワクチン接種義務を回避するために仕事を辞めたという報告もみられた。新型コロナウイルスまん延の影響で、一部企業は対人業務の復帰をさらに遅らせており、新型コロナウイルス濃厚接触により労働者が隔離された後、事業を閉鎖したという報告もあった。募集職種への応募者が少ないため、多くの企業が既存の従業員を引き止めるために給与を引き上げていた。また、離職率も通常より高くなっていた。
物価	急速に（rapidly）上昇、今後1年間は強い（strong）増加ペースが見込まれる	生産者価格が大幅に上昇したのは、材料費、エネルギー費、人件費、輸送費などの上昇による。しかし、一部の材料価格、特に木材や一部の鉄鋼製品の価格は、年初に大幅に上昇した後、安定してきていることの報告がみられた。消費者価格は全体として堅調に上昇した。消費者価格が上昇した要因として、堅調な需要、限られた在庫、コストの上昇、コスト上昇分の顧客への転嫁能力の向上などが挙げられた。
個人消費	控えめに（modestly）増加	娯楽およびホスピタリティ関連の支出は、ホテルを中心に減少し、特にコンベンションの中止の影響を受けた地域では減少した。外食産業の売上高はほとんど変化がなかった。直営店売上高は、緩やかに増加し、ハロウィン関連の売り上げは例年に比べて顕著に増加した。家具や電子機器の需要は引き続き堅調に推移したが、家電製品や住宅設備機器は在庫や価格の問題で販売が制限された。ディスカウントストアの売り上げは大幅に増加し、デパートでは宝飾品、アパレル、アクセサリを中心に予想以上に好調だった。食料品の販売数量は横ばいだったが、高水準を維持した。インフレ調整後のホリデーシーズンの支出は、昨年に比べて小幅に増加するとの予測がほとんどとなった。小型自動車の販売台数は、在庫が極めて少ない状態が続いたため、ここ数週間はほとんど変化がなかった。ディーラーの利益率は、長期的な平均値を上回って推移した。
企業支出	緩やかに(moderately)増加	サプライチェーンと物流の問題が続いているため、多くの分野で小売在庫が不足しており、2022年後半まで続くと思われる。製造業では、販売在庫は若干増加したものの依然として逼迫しており、一部の金属、化学品、樹脂、紙、電気部品など幅広い種類の原材料が不足した。輸送サービスに対する需要は引き続き高まっており、多くの担当者から、国内外の船舶の遅延が続いていることや、貨物・運賃が高いことなどの報告を受けた。設備投資は緩やかに増加しており、今後1年間も同様のペースで拡大すると予想されている。一部の機器のリードタイムは依然として長くなっている。商業用エネルギー消費は、特に小規模な事業所で若干減少し、家庭用エネルギー消費は若干増加した。
建設と不動産	ほぼ同様	住宅用の不動産建築は横ばいだった。建設業者は、需要は堅調だが、資材や労働力の不足により活動が制限され続けていると指摘した。集合住宅の建設と再開発は高水準を維持した。住宅用不動産は堅調で、価格と賃料はわずかに上昇した。商業用の建築はまちまちで、価格は小幅に上昇したものの、住宅と同様、資材や労働力の供給問題が成長を妨げた。商業用不動産は、正味ではほとんど変化がなかった。工業用スペースは引き続き高い需要があった。全体として、商業用不動産の販売価格はわずかに上昇したが、賃料はほとんど変わらなかった。また、空室率もほとんど変化がなかった。
製造業	控えめに（modestly）増加	未完了の注文が多く残っているとの報告がみられた。需要が旺盛なメーカーは概して生産量を増加させることができたが、労働力や物流の問題が続いており、多くのメーカーが生産量の増加を妨げられた。自動車生産台数はわずかに増加したが、マイクロチップやその他の材料の不足が続いているため、組立業者やサプライヤーは低水準にとどまった。大型トラックの需要は好調で、在庫が減少し、中古トラックの価格が上昇した。鉄鋼需要については、各社ともほとんど変化はなく、高水準で推移した。自動車分野の鉄鋼需要は低迷していたが、若干回復した。建材需要は若干減少したが、商業施設からの堅調な受注に支えられ、引き続き好調だった。
金融	わずかに（slightly）改善	ビジネスローン需要は、買収資金や在庫コストの上昇をカバーするための信用枠に対する需要もあり、やや増加した。建設および集合住宅向け融資も増加した。ビジネスローンの質は若干向上し、融資基準は緩和された。消費者市場では、ローン需要は全体的にやや増加した。自動車ローンに対する需要は引き続き高い水準にあるが、住宅ローンは堅調な水準から若干弱まった。ローンの質はわずかに向上したが、融資基準は全体的に横ばいとなった。
農業	所得は向上と予測	2021年の農業所得見込みは、トウモロコシと大豆の収穫量が予想を上回ったことにより上昇した。大豆の収穫量は地区の記録を更新する可能性が高く、トウモロコシの収穫量は過去3番目の規模になる可能性が高いとの報告がみられた。収穫量が多いにもかかわらず、トウモロコシの価格は上昇した。大豆の価格は低迷したが、まだ前年の水準を上回っている。農家は、燃料、肥料、種子などの価格と入手可能性への懸念から、通常のスケジュールよりも早く次年度分を購入した。豚と卵の価格は下落し、牛と乳製品の価格はまちまちだった。農地価格は大幅に上昇した。

（出所）シカゴ連銀経済報告を基にジェットロ作成